

1. 運営方針

【全体】－ 子どもの発達を保障する保育の質の向上を図るため、職員間による園理念・方針・目標の共有化、具体化、深化を推進すると共に、「見える化」して保護者・地域に発信していく。

- 計画的に会議・研修等を実施し、園理念・方針・目標について職員間で話し合う機会を設ける。
- 保育・食育計画の確認・整理を行い、0歳児から6歳児までの一貫した「帯」作りに取り組む。
- 子ども・保護者・地域・職員が協働して、園理念に基づいた「SDGs」の取り組みを推進する。

→ 研修や食育計画の計画的な作成・実施はできなかったが、次年度に向けた検討はできた。「帯」作りの検討を通して、優先度や決定過程などの今後の課題は明らかにすることができた。

→ 職員間での研修・検討、ひかりまつりを通して保護者との協働など、「SDGs」の取り組みを行うことができた。

→ 第三者評価を受診したことで、具体的な課題が明らかとなり、今後の運営に大変参考になった。

① 子ども － 保育計画に基づいた保育内容についての学びを深め、共有徹底し、子どもへの適切な支援の確保、保育の流れの工夫改善、保育環境の整備を図る。

- 目的に応じた「職員研修」の実施。
- 個別や発達支援に関する「ケース検討会議」の充実。

→ 職員研修の実施や特別支援体制の充実は十分ではなかったが、次年度への方向性や計画について検討することができた。

② 保護者 － 園理念・方針の理解協力と、保護者会との協働を図る。

- 面談などの「直接対話」の機会を積極的にもつ。
- 在園児保護者会「よつば会」との連携をより一層図る。
- 「本園分園合同保護者参加行事」の実施。

→ 保護者面談、「よつば会」との連携、合同行事は、必要に応じてまたは計画的に実施することができた。

③ 地域 － 子ども会や自治会、団体等との交流・連携を図る。

- 社会福祉など「地域貢献」に関する事業の立案・計画化に取り組む。
- 地域の公園・施設等の利用の機会を増やす。

→ 地域交流事業は、今年度は計画化まではできなかったが、次年度以降の中長期事業計画として立案することができた。

→ 散歩や保護者行事など、地域の公園・施設等の利用の機会を設けることができた。

④ 職員 － 「働き方」を見直し、業務の簡素化・効率化を図ると共に、チーム協力体制をつくる。

- 各部署間、本園分園間の運営の連携体制を構築し、「ひとつの園」作りを推進する。
- 「日常業務」について、会議等での確認や検討を行い、周知徹底を図る。
- 「保育活動・行事」の振り返り、実績資料の作成・整理・管理などを徹底する。
- 「自己評価制度」を見直し、園の現状にあった評価表を作成し、実施する。
- 職員の「個別面談」を計画的に行う。

- 分園土曜保育を本園で行い、業務など連携体制の見直し等を実施できた。
- 日常業務や保育等の確認・検討を各会議等で定期的に行うことができた。
- 自己評価表の見直しを行った。また、職員個人面談は計画通りではなかったが、実施できた。

⑤ 会 議 — 保育・業務の質の向上のため、会議運営の効率化、内容の充実を図る。

- 「会議運営」の在り方を見直し、必要に応じて再編成を行う。

- 課題の確認を行い、次年度以降の中長期事業計画として計画的に見直すことを決定した。

⑥ 食 育 — 食・環境の重要性の学びを深め、安全・健康・自然な食材を提供する。また、園児・保護者に食育への関心を広める。

- 現在の食育計画を見直し、園全体の取り組みを体系化した食育計画（献立表・クッキング等を含む）を作成する。

- 今年度の作成までは至らなかったが、次年度以降の中長期事業計画として、計画的に見直すことを決定した。

2. 職員体制 園長—堤智行 副園長—財津和

主任保育士（分園リーダー）—黒木愛 副主任保育士（本園リーダー）—上村吏香
事務長—今福美香

3. 定 員 本園分園変更なし。

4. 利用時間・利用日 分園の土曜保育は、本園で行う。

5. 利用料 変更なし。

6. 健康診断・避難訓練等

7. 行事等

8. 機関紙等 ひかりのこ作成配布 HP の定期更新の実施

9. 備品、遊具等購入・建物改修

本園 — 駐車場整備。園庭整備、柵の設置、倉庫の買換え等。

分園 — 保護者通用口の整備等。

- 本園の駐車場整備・照明設置、園庭柵整備、未満児テラス改装等を実施した。分園通用門の整備は業者依頼まで行った。

10. その他

以上